

水稻苗

# デジタル予約広がる

## 三重・JA伊勢 肥料・農薬も着手

【三重・伊勢】JA伊勢は、IT・DX対策が中心となり、水稻苗の注文やライセンサー予約などで、デジタル化を進めている。2024年度産米の苗の注文は、全地区を対象としたことや、職員による呼びかけを行った結果、オンラインでの予約率が、3月末時点で前年比120%となった。

水稻苗の注文は、組合員がスマートフォンなどでQRコードを読み取り、苗の種類や必要枚数などを入力することで完了する。

紙による注文書も並行して受け付けている。この場合は、デー

みとした。

JAの担当者は「管内でデジタル化に対する意識が高まり、前年よりも多くの生産者にオンラインで予約をしてもらえるようになった。デジタル化を求める生産者のニーズにこたえつつ、業務の効率化に取り組んでいきたい」と話す。

本年度は、水稻肥料・農薬予約注文も、デジタル化した。これまでは、職員が注文数や種類などを全て手作業で

入力していたが、OCRツールとRPAを活用することで、予約分

約1300件の肥料農薬データの入力を自動で完了した。

JAはこの他にも、カボチャやイチゴなどの作物の出荷情報をスマートフォンで登録できるようにするなど、デジタル化を通じた組合員の利便性向上に取り組んでいる。